



つづく つながる 夢を育てる学び舎
国立二小だより

令和5年(2023年)4月28日

国立市立国立第二小学校

校長 内田 辰彦

4月のスタートの様子

校長 内田 辰彦

1学期が始まって1か月が過ぎようとしています。87名の新1年生も毎日元気に登校してきます。4月24日からは給食も始まりました。4時間の授業をしたあとで、給食の準備をして、他の学年と同じように喫食をしています。1年生も給食当番をして、当番の子が盛り付けをしたり、一人一人が順番を守って給食をとりにつたりしています。始まって3週間ほどで随分と学校に慣れてきたな、と感心しますが、それには一つの仕組みがあることも学校生活に慣れてきた理由であると考えます。

その仕組みとは「スタートカリキュラム」です。入学したばかりの1年生は、それまでの園での生活と新しい小学校での生活の違いに戸惑うこともあります。そのため、園での生活を参考にして、入学後の学校生活の内容を工夫し、少しずつ小学校での生活に慣れるように考える必要があります。その計画を「スタートカリキュラム」と呼んでいます。そしてこのスタートカリキュラムの作成には、二小では近隣の保育園の先生方からの意見を参考にして具体的な内容に取り入れています。例えば、小学校では先生が前に立ち児童は一人一人の机に座って先生の方を向いて座ります。けれども入学当初は上記のような座り方だけでなく、机を後ろに集めて教室の前方にスペースを作り、椅子だけで丸く円をつくって座ります。そうすることで、先生だけでなく周りの友達の顔を見ることができ、安心して話を聞くことができます。また、小学校の1単位時間は45分間ですが、15分程度の時間を単位として学習する内容を構成します。15分程度であれば、集中して取り組むことができるためです。国語の内容、音楽の内容、図工の内容、生活の内容などを上手に組み合わせ、興味・関心が持続しやすいように配慮しています。さらに、園で習った歌や手遊びなども適宜取り入れて内容を構成しています。

先日、1年生の様子を近隣の保育園の先生方が参観に来ていました。卒園した1年生の様子を見ていただき、様々にご意見もいただきました。いただいた助言はさっそく指導の中に活かしています。連携を深めながら指導の充実を図っています。

さて、4月10日から新校舎の工事が始まりました。まずプールを解体して運動場を広げる工事と仮設の南門を作る工事が始まっています。西門のそばに工事車両専用の出入り口を設け、子供たちの登下校の動線と重ならないようにしています。また、登下校中を含め作業中は警備員を配置して安全管理をしています。4月24日からは、新校舎本体建設のための工事も始まり、正門と東門が閉鎖されました。2つの門を閉鎖することに伴って、学校支援センターの入口として使用していた北東の門を南門ができるまでは使用します。また、工事に伴っていよいよ校庭に工事用の区域が設定されました。芝生の校庭の大半は工事区域内に入ります。正門近く桜並木やたくさんの種類の樹々も工事区域の内側になり立入が禁止となりました。それに先立って4月22日の土曜日には国立第一中学校の関係者の方々が、二小の芝生を一中に移植するために来校しました。エアレーションなどの芝生の手入れをしていただき、それによってできた芝生の赤ちゃん(小さな苗)などを一中の芝生として育てていただくことになりました。

工事も着々と進んでいます。安全には十分配慮して、学校生活を継続させていながら工事が計画通り進んでいくことを願っています。学級での一人一人の4月のスタートの様子は、5月の2週目から始まる二松ウイーク(個人面談)の中でお伝えしていきます。

